

<主な御意見>

以下のとおり御意見がありましたので、事業の参考にさせていただきます。

Ⅰ.ACPの取り組みについて

【ACP冊子について】

- “人生の最期に至る軌跡”において、もしもの時、人はどのような状態（意識、日常生活行動など）になるのかの説明がある方が、なぜACPなのか理解しやすいと思う。
- ACP という言葉より“人生会議”といった言葉の方が一般の方にはわかりやすいのではないか。
- 決定を強いるものではなく、話し合いを推奨するものと考えているので、話し合いましょうという肯定する文章があってもいいのではないか。
- 「人生の最期」を考えるにあたり、思ったことや考えが変わった理由など書き込める自由記載欄（フリースペース）があったらいいのではないか。
- もしものとき（チラシ・冊子）のステップ1~5の文言を合わせた方がいいと思う。
- 表紙をパッと見てイメージがわからない。
- 表紙の「もしものとき」と「人生の最後に…」を入れ替えた方が可視化しやすい。
- イラストを使用した方がわかりやすく、視覚でもっと訴えた方が良いと思う。チラシも。
- 医療・介護事業所での試行的活用において、文字の大きさやフォント等について、十分なヒアリングをお願いしたい。

【普及啓発方法について】

- 退院のタイミングで書いてもらっておいて、次回入院の際に、終末期への意思が分かるようにしてもらっておくことが必要ではないか。
- 病院側でも前もって退院時などに確認するようになってもらうことは可能か。
- 趣旨が違うため一本化するなどの話ではないが、オレンジ手帳との関連性、重複項目があるので両方とも対象となる方には、双方を参照しながら書き込めるよう案内した方がいいのでは。
- どこで誰が配布していくのか。
- 病院、クリニック、施設等の入口に置かせてもらってはどうか。
- ご本人・ご家族と折々の面談、会話の中で聞いていけたらと思う
- 入院、手術、治療開始の場面で同意書等のサインがありますが、同意書の代わりにこの「もしものとき」が使われるようになると良いと思う。
- 誰にでも気軽に渡せるようコストの安い冊子を大量に作り、至る所に置く、配る、子どもにもわかる冊子も作る。
- ターゲットが50代以上になっているが40代ぐらいからでもよいのではないのか。

2. 報告案件(1)(2)、座長提供資料についての質疑等

【かけはしいさはやについて】

- コロナ禍の中の研修会で、リモート研修会が多くなった。しかし、一方では顔の見えない中での研修会でもあり、アフター研修や、研修会の中での交流が減っているため、情報交換ができにくい状態になっているため、開催方法の検討が必要。
- かけはしいさはやの頑張りが少しずつ結果として出ているような感じがする。そういう声も聞かれる。引き続き頑張ってもらいたい。

【その他】

- 今後は諫早市が目指すべき姿の、課題解決の手段を実現し、理想とする姿へ向かって連続性を持った継続的な向上を図るためにも、PDCA サイクルに沿った事業をマネジメントすることが必要である。